説明会及び意見交換会の概要

日　　時	平成２５年　１０月　１７日　（木）　１９：３０～２１：００		
対象団体	鹿野地域住民	参 加 者 数	２５人
場　　所	鹿野町総合支所		
出 席 者	中川支所長、米田副支所長、校区審議室（神谷、小谷、清水）		

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
1	地域の議論を踏まえてＨ２６年度当初を目標に答申とあるが、全地域を対象とした考え方を示すことになるのか。	全体として答申が出せればいいが、地域ごとの答申になるかも知れない。地域の議論が中途で、今後の進展を期待するといった形になるかも知れない。具体的な答申の内容は全く未定の状態である。「答申の実際の時期や内容については、各地域の議論の状況により随時検討する」としており、地域の議論の状況を見ながらの答申になるのではないか。現時点では、Ｈ２６年度当初の答申を目標としているということ。
2	気高中と青谷中学の改築で、鹿野町の意識はトーンダウンしたが、地域として意思を示して欲しいというのは従来どおりという認識でよいか。ただ、これ以上に協議を進めるのは難しいと思う。	「とにかく今のままで学校を残す」というのではなく、残すのなら今以上に魅力的な学校、小規模化の課題を払拭していくような学校のあり方を提案して欲しいという気持ちである。
3	気高中と青谷中の校舎改築はＨ２９年度末の完了だが、それまでの期間は統合することは無いということか。改築の途中でも、統合や小中一貫校といった方向転換は可能なのか。	方向転換は否定しない。以前は、一度学校を建てたら何十年も使うことになるので、将来の課題を今議論しましょうと言ってきた。しかし、地域としての結論を待つことで、子供たちの安心安全の確保が遅れてはいけないとの判断で改築が決まった。学校のあり方の議論を継続してお願いしており、方向転換により補助金返還になってもそれは認めるという考えである。
4	お金がたくさんあればいいが、鳥取市はお金がある自治体とは言い難い。統合となるなら校舎を改築しても無駄になるのでは。	統合によって校舎が不要になっても、耐震性のある校舎は地域の防災拠点や社会福祉施設への転用といった使い方も考えられる。その点も含めた議論をお願いしたいと考えている。安心安全の確保という観点では、プレハブ校舎が建った時から耐震問題は解消されるが、今の段階で決断しても完成にはＨ２９年度末まで掛かる。改築の判断が伸びれば、もっと遅れることになる。学校以外への転用の可能性も含めて改築を決定させていただいた。
5	Ｈ２６年に一端は結論を出さないといけないようだが、結論が出なければ延々と求められることになるのか。	これまでは校舎の耐震問題があり、結論を急いでいた感は否定出来ないが、改築の決定で腰の据わった議論が出来る環境になった。結論が出なければエンドレスということも考えられるが、状況の変化ということもあるかも知れない。
6	地域との関わりも大切だと思うが、一番は子供たちが夢や希望を持って勉強が出来、将来にプラスになるような学校づくりをして欲しい。	地域、審議会、教育委員会が一緒になって考えていく必要がある。学校のあり方にはいろいろな考え方が存在する。例えば湖南学園の小中一貫校もその一つ。ただし、湖南学園のやり方も絶対でなく、鹿野独自のスタイルを考えることも可能だ。１１月２５日に湖南学園で、地域ともにある学校づくりをテーマに「小中一貫教育実践研究発表会」が開催される。地域住民の参加も予定されており、鹿野の学校づくりの参考になるのではないか。
7	改築しても統合への方向転換がありうるとのこと。改築する校舎は統合を見越した大きな規模の校舎となるのか。	改築は今の生徒規模に基づいた校舎になる。「～だろう」「～かも知れない」との不確定な根拠での設計は出来ない。改築した後に統合が決まり、増加する生徒が入れないといった場合には、新たに校舎を増築することになる。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
8	西部地域は中学校の改築という方針が出たので、これ以上考える必要はないのではないか。この意見を校区審議会に報告すればいいのでは。	校区審議会は校舎改築の答申を出すものの、学校の小規模化の課題など、本来の議論に触れている訳はない。お願いしたいのは、鹿野町が地域としてどのように考えていくかという点にある。
9	改築が決定したので、これからは時間をかけて地域の住民と協議し、実際に児童数が減少すれば、その現状を踏まえて学校のあり方を考えていくとの理解でよいか。	そういうことになる。
10	鹿野は、気高や青谷との議論や調整を経ずに方向性を決定していいのか。気高、青谷の審議待ちとなるのか。気高や青谷の議論の進捗の度合に関係なく進められるのか。	気高や青谷の議論を待たずに進めて構わない。鹿野の意見が固まるのなら歩調を合わせる必要もない。「地域の意向を無視して校区審議は行わない」という意味で、早くまとまった方が早くスタートが切れることになるのでは。
11	子供たちの安心安全を確保するため改築を進める。学校のあり方については継続審議が必要というこの２点をハッキリと言わないと、いつまた統合問題がぶり返すかも知れないと思われる説明の仕方では住民は混乱する。説明会になっていない。議会もこんなあいまいな説明では通らない。	統合させようという発想では無いし、統合を前提とした説明でもない。
12	改築が決まっても方向転換はありえると聞けば、いつ統合問題がぶり返すかも知れないと思い、鹿野住民は落ち着くことが出来ない。だから、統合を前提に校舎を改築するのかとの質問も出たのではないか。	統合を前提とした設計ではない。
13	以前「一度校舎を建てたら何十年も校舎を使う必要がある」との説明を受けた。高いお金を使って建てるので、そうだよなと個人的に思いつつも、なかなか判断出来なかった地域がある。だから校区審議会が子供たちの安心安全のため改築を決定したのは英断だと思う。ただし、改築完了後に議論をリスタートするのではなく、改築している間でも方向転換の可能性を否定しないと聞くと不安で混乱する。分かりやすく説明して欲しい。	改築は間違いなく行う。昨日から今日にかけて青谷中と気高中の校長先生に対して改築スケジュールを説明し、学校や保護者、地域からの要望のとりまとめを依頼した。改築が白紙になることは無い。ただ、校区審議会は、改築は今の生徒たちの安心安全を確保するためで、将来の学校のあり方の結論が出てる訳ではないと考えている。学校のあり方を考えるというのは、今後、単独で行くのか、統合するのか、小中一貫校とするのか、それ以外の道を選択するのかという鹿野の学校の将来を方向付けることである。
14	併行して物事を考えていかなければいけないのか。	以前の論点は、①耐震性のない校舎をどうするのか、②小規模化が進んできた学校の今後をどう方向付けるのか、であったが、①は改築が決定したことで論ずる必要が無くなった。今後は②に絞って考えましょうということである。２点が１点に絞られたということ。
15	この議論は進行形で、校舎を建てても、統合で学校として使わないならコミュニティーの施設として使っていくこともありえるということか。	以前は、建てるからには学校として何十年も使うことになると説明してきた。改築の決定は、イコール存続や小中一貫校という結論でもあった。しかし今は、校舎は改築するが将来のあり方が決定されるものではなく、学校以外の用途変更もありえるということ。
16	校区審議会は校区について審議する機関だが、財政の観点から考えると、国から補助金を貰って学校を建てる訳で、改築後１０年以内に学校を廃止すると補助金返還もありえる。改築後数年で統合するのは、財政的に見れば許されないのでは。	確かに１０年経過しなかったら補助金返還になるが、そのことも含めて中学校改築が判断された。

説明会及び意見交換会の概要

	主な意見、質問等	質問に対しての回答
17	議会がどう判断するかも分からないのに、補助金返還のことをあれこれ言わない方がいい。	―
18	「鹿野中は３学級で、これから増える見込みは乏しい。気高中や青谷中はさておき、生徒数減少で一番問題が出てくるのは鹿野中だぞ。その時になって慌てないよう、鹿野の人は小中一貫校なり統合なりを今から時間をかけて考えておきなさいよ。」と強いメッセージを送ってもらう方が分かりやすいと思う。西部地域とか表現されると全体話かなと思うし、３町での議論も視野に入れないといけないと思ってしまう。分かりやすく言って欲しい。	今後の学校のあり方を、児童生徒数の推計も踏まえながら考えて下さいということ。校区審議会は統合を含めた検討の必要性を述べているが、決して結論を持っている訳ではない。皆さんの議論に委ねるということで、ある日突然、学校をどうしますかと聞かれても、すぐに結論が出るはずもないので、前もって皆さんに投げ掛けているところだ。
19	改築はＨ２９年度まで掛かるので、それまで学校のあり方の議論は中断するのかなと感じていた。気高中や青谷中が改築となれば、鹿野としては気持ちも流れてしまう。それではいけないと思うし、もっと議論しなければいけないと思う。Ｈ２９年度の校舎完成までは長すぎると個人的に思っていた。	改築が終了するＨ２９年度まで議論を先送りということない。校舎改築中でも議論は進めましょうということ。
20	基本的なスタンスは変わっていないということか。以前に小学校で話を聞いた時は、校舎を改築すると西部地域の中学校の将来が固定化されるので、その前に考えましょうとのことだった。しかし今は、校舎は改築するけど議論は継続してくださいとなった。少子化による生徒数の減少、学校の小規模化の問題はずっとついて回る。検討を続けるという基本的なスタンスは変わらず、校舎の改築の部分だけ方針転換したとの認識でよいか。	そのとおりである。
21	山陰自動車道が開通したら、ストロー現象で鹿野の人口は減少し、過疎化はより一層に進む。一番心配なのは、鹿野は中山間地の中で一番人口が少ないこと。今考えないといけないのは、鹿野の校区と気高の校区の線引きを変えること。町界をまたぐので難しいと思うが、気高の中学校区を小さくし、鹿野の中学校区を大きくする。鹿野から青谷に移ることは無いが、気高に移ることはあり、気高が肥大化するのは間違いない。鹿野は働く場所がない、雪も多い、鉄道もない、の無い無いづくし。今すべきは、鹿野と気高の校区変更、教育委員会に考えろと言っても出来っこないが、私は８年前から市長に話している。先手先手を打っていかないと鹿野町は壊滅する。	そういうアイデアも貴重なご意見である。校区の変更も含めて鹿野の学校のあり方を考えていただければと思う。
22	校区審議会は、地域としての意見を尊重して校区を考えていく。だから皆さんで議論してくださいねという提案だと思っている。そういう理解、認識でいいですね。	そのとおりである。地域審議会がこの３０日にあるが、また同じ話をさせていただく。
23	地域の議論を進めていく上で、校区審議会の支援があると思っていいのか。地域の議論をどんなメンバーで進めていくのか、校区審議会が直接言っていただいた方が、鹿野地域としては動きやすい。	可能な限り支援をしていく用意である。